

テレビ会議システムを用いた遠隔公開講座の検討（2）

加藤 直樹*1

〔概要〕テレビ会議システムを用いた遠隔公開講座を実施し、講座受講者の意識を調査することで今後の遠隔授業の実施方法について検討した。主会場にいる講師は、同じ主会場とテレビ会議を通じた遠隔会場の2会場を同時に指導した。意識調査結果からは、テレビ会議システムを用いた遠隔授業は実用範囲にあり、遠隔会場における受講機会の拡大を受講者等が多いに歓迎し、今後の受講機会のさらなる拡大を期待していることが明らかとなった。また、テレビ会議システムにより伝送される情報として、映像情報は一体感の向上に、音声情報は内容理解に重要な情報であることが指摘された。

〔キーワード〕遠隔教育、公開講座、テレビ会議システム、通信ネットワーク

1. はじめに

情報通信手段を用いた遠隔教育は、国内外での実用化が進められており、大学の地域への開放手段としての適用が可能となってきている。また、1998年には「遠隔授業」の大学設置基準が改正され、制度的位置付けや実施上の留意事項について示された。

このような状況において、教員養成系大学においては、情報通信手段の活用による現職教員のリカレント教育についての検討が必要となっている。

そこで、今回、岐阜大学教育学部で1995年より開催している免許法認定公開講座をテレビ会議システムにより遠隔公開講座として開催し、受講者である教員等の意識を調査することで、今後の遠隔教育の方法に関する基礎資料を得ることができたので報告する。

2. 遠隔公開講座と調査

テレビ会議システム（INS64）を利用した遠隔公開講座を、1997年9月～12月の計9日間で実施し、岐阜大学会場を主会場として、県内の最も遠方地区である飛騨地区に遠隔会

場を設置した。

今回は、岐阜大学会場にいる講師が、岐阜大学の対面受講者と高山の遠隔受講者を同時に指導する形態とした。遠隔講義は、表1に示す3タイプで各科目を実施した。

表1 遠隔講義のタイプ

科目	主な特徴	主な講義方法
(I)	提示重視	提示資料を多様 テキスト配布（テキスト中から提示資料を抜粋） 全体討議、グループ討議 受講者の代表発表 指名、質問等による発言
(II)	討議重視	グループ討議を多用 討議結果を会場毎に発表 テキスト配布 ビデオ資料の活用 指名、質問等による発言
(III)	説明重視	講義主体の授業構成 テキスト配布 必要に応じて資料提示

調査は、線結び式内容分析による評価、受講者意識の調査、および自由記述によりのべ受講者306人に対して実施した。

3. 調査結果

自由記述による調査結果を表2に示す。

*1 Naoki KATO

:岐阜大学

e-mail nkato@cc.gifu-u.ac.jp

表2 意見カテゴリーの分布

カテゴリー	高山		岐阜	
	度数	%	度数	%
好意・歓迎・賞賛	14	23.0	56	37.6
学習機会拡大を歓迎	40	65.6	41	27.5
システムの有効性	4	6.6	22	14.8
講義方法の工夫	3	4.9	5	3.4
システムの改善点	19	31.1	58	38.9
操作法の改善点	6	9.8	12	8.1
講義方法の改善点	12	19.7	31	20.8

全体的には、遠隔授業を肯定的に捉えており、高山会場では「学習機会が拡大されることを歓迎する記述」が多数を占めた。改善点では画像や音声に関する記述が多く見られるが我慢できない程ではなく、慣れによる抵抗感の軽減も指摘された。講義方法では、会場間の交流機会の拡大を望む指摘がみられた。

線結び式内容分析による結果では、映像情報は、講義内容の理解よりも情緒面での一体

感の確保に有効であり、さらに一体感を増す為には発言機会を確保することが重要となることが指摘された。また、講義内容の理解には説明等の音声情報、テキストが重視される傾向にあった。

会場間の受講者意識は、総じて遠隔会場である高山会場で高くなる傾向にあり、総合的には本テレビ会議システムによる遠隔講義が実用化可能であると考えられる。講義タイプ別の意識調査からは、討議重視型で会場間の意識の差が小さくなっていった。

4. おわりに

INS64 を用いたテレビ会議システムを用いた遠隔授業は、調査結果から実用的レベルにあると考えられる。また、講義内容の理解には音声・テキストが重要であり、テキストが必須であろう。さらに、講義方法においては討議や発言機会を重視する必要があることなどが明らかとなり、今後の遠隔講義実施に関する基礎的資料を得ることができた。

今後、多地点による遠隔講義方法について検討する計画である。

